

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 関ヶ原古戦場整備活用事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光国際部 観光資源活用課 関ヶ原古戦場活用推進室 活用推進係

電話番号：058-272-1111(内3935)

E-mail：c11337@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 40,000 千円 (前年度予算額： 40,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000
要求額	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

国内外に高い知名度を誇る関ヶ原古戦場を、戦国をテーマとした広域周遊観光の核として整備し、観光資源として磨き上げを図る。

そのため、関ヶ原町が実施する受入環境整備、誘客PR、拠点整備、特産品開発、海外古戦場との連携など、関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組みを支援する。

(2) 事業内容

関ヶ原町が実施する「関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組み」に要する経費の一部を助成する。

【補助対象経費】

関ヶ原町が実施する受入環境整備、誘客PR、拠点整備、特産品開発、海外古戦場との連携など、関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組みに要する経費

【補助対象者】

関ヶ原町

【補助率・補助限度額】

○補助率 県2/3、町1/3 (誘客促進事業及び施設整備事業)

○県補助限度額 予算の範囲内

(3) 県負担・補助率の考え方

関ヶ原古戦場を核とした戦国・武将観光の推進は、「岐阜県経済・雇用再生戦略」において「世界に選ばれる持続可能な観光地域づくりプロジェクト」の主な施策に位置づけられており、県として重要度が高いことから、県補助率を2/3とする。

(4) 類似事業の有無

有

戦国観光推進事業費補助金

(本事業との役割分担)

本補助金が関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組みを行う関ヶ原町を支援するのに対し、戦国観光推進事業費補助金は戦国武将をテーマとした広域周遊観光を促進する市町村の取組みを支援するものである。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	40,000	関ヶ原古戦場の整備活用に要する経費に対する助成
合計	40,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の進行

④世界に選ばれる持続可能な観光地域づくり

(2) 後年度の財政負担

令和7年度まで継続予定。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	関ヶ原古戦場整備活用事業費補助金
補助事業者（団体）	関ヶ原町 （理由） 史跡関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組みを支援するものであることから、国指定史跡の所在する関ヶ原町に限定される。
補助事業の概要	（目的） 関ヶ原古戦場を広域周遊観光の核として整備すべく観光資源として磨き上げを図る。 （内容） 関ヶ原古戦場の整備と活用に向けた取組みに要する経費の助成
補助率・補助単価等	定率 （内容） 県2/3 （理由） 県補助率を2/3とし、受益者負担を求める。
補助効果	関ヶ原古戦場が広域周遊観光の核として整備される。
終期の設定	終期 令和7年度 （理由） グランドデザインに基づいた令和3年から令和7年までの5年間の関ヶ原古戦場に係る取組方針に基づき支援を行うため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

関ヶ原古戦場への来訪客数を令和7年までに30万人に増加させる。
※基準値：10万人（平成26年）

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
① 関ヶ原古戦場 来訪客数	10万人	20万人	23万人	28万人	30万人	67%

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度		
	32,185	37,985		

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	平成26年度に策定した関ヶ原古戦場グランドデザインに基づき、史跡整備・史跡ガイドの養成・特産品開発などを実施し、関ヶ原古戦場入込客数は平成26年10万人から令和元年には16万人まで増加。令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、同年10月に開館した岐阜関ヶ原古戦場記念館効果もあり、約12万人にとどまった。
	指標① 目標：30万人 実績：12万人 達成率：43.3%
令和3年度	関ヶ原古戦場グランドデザインに基づく史跡整備・史跡ガイドの養成・特産品開発実施等の推進とともに、岐阜関ヶ原古戦場記念館開館効果もあり、コロナ禍の中ではあるが、令和元年の16万人と比較しても来訪客が1万人増加（17万人）まで回復し、今までの取り組みの成果が見られた。
	指標① 目標：30万人 実績：17万人 達成率：56.6%
令和4年度	前年に引き続き、コロナ禍の影響は受けたが、岐阜関ヶ原古戦場記念館の開館及び古戦場周辺環境整備の効果が表れ、来訪者はコロナ前のピーク時（22万人）に近い20万人に上り、今までの取り組みの成果が見られた。
	指標① 目標：30万人 実績：20万人 達成率：66.7%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	事業実施主体は関ヶ原町であるが、これまで関ヶ原古戦場グランドデザインに基づき県と町で協力して整備等に取り組んできた経緯から、引き続き支援する必要がある。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 3	関ヶ原古戦場入込客数は平成26年10万人から令和元年は16万人と増加した。令和2年10月に関ヶ原古戦場周遊観光の拠点として岐阜関ヶ原古戦場記念館が開館したが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年は減少した。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	史跡の管理・整備主体である関ヶ原町への補助により主体性が保たれているとともに、作業や時間等の効率化が図られている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 史跡や受入環境の整備はおおよそ完了したが、誘客PRなどソフト面の強化を実施する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜関ヶ原古戦場記念館を核とした広域周遊観光を実現するため継続した支援が必要。</p>
